Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気動向指数（2010年11月）

～ＣＩ一致指数が３ケ月ぶりに上昇～

発表日：2011年１月11日(火)

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ ＣＩ一致指数は３ケ月ぶりに上昇。景気後退は回避される可能性高まる

本日内閣府から公表された 2010 年 11 月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差＋1.4 ポイントとなった。輸出の減速や自動車の大幅減産等を背景として、９、10 月には２ヶ月連続で低下していたが、11 月は３ヶ月ぶりの上昇となり、低下にいったん歯止めがかかる形になった。景気の下振れ懸念を和らげる結果である。内訳では、中小企業売上高、商業販売額（卸売業）、鉱工業生産財出荷指数などのプラス寄与が大きかった。

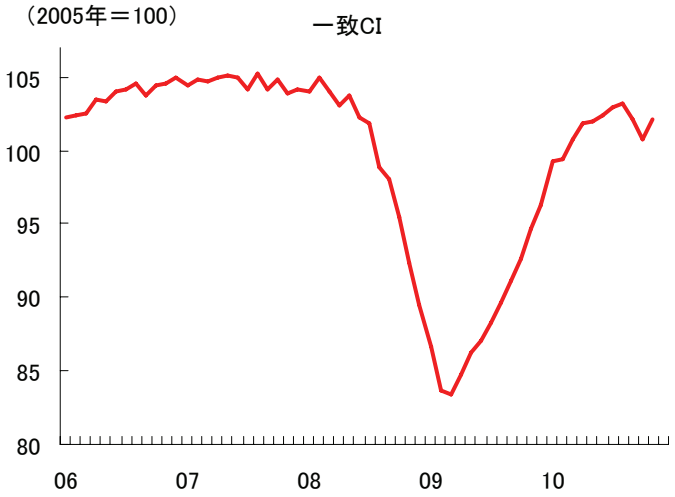
11 月分の上昇のみならず、ＣＩ一致指数と関連の深い鉱工業生産指数において 12 月、１月に大幅上昇が見込まれていることも好材料である。９、10 月には２ヶ月連続でＣＩ一致指数の基調判断が下方修正されるなど、景気失速懸念も強まっていたが、どうやら景気後退局面入りは回避できそうな状況になってきた。

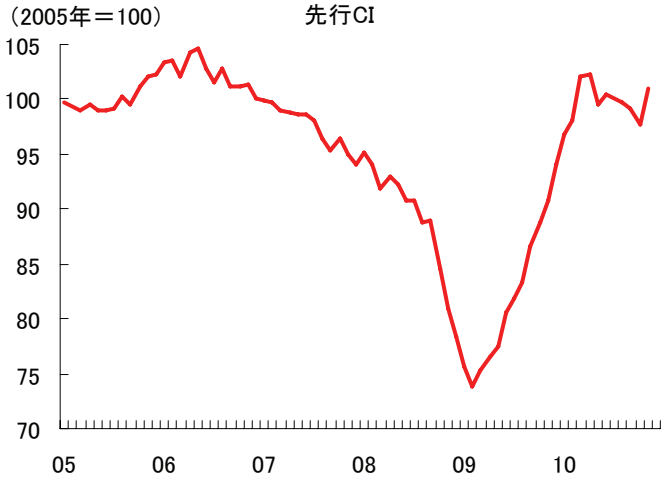
なお、ＣＩ一致指数は、11 月単月では上昇したものの、３ヶ月後方移動平均の前月差はマイナスが続いているため、内閣府によるＣＩ一致指数の基調判断は「足踏み」が維持された。

また、７ヶ月移動平均の前月差は＋0.04 ポイントと２ヶ月ぶりに上昇し、ここでも景気後退リスクの弱まりが示唆されている（基調判断の「局面変化」への下方修正には、７ヶ月移動平均の前月差が１～３ヶ月の累積で一標準偏差以上マイナスに振れることが必要）。ちなみに「改善」への上方修正には、３ケ月移動平均が３ケ月以上連続して上昇することが必要であるため、基調判断の上方修正は最短でも２月分の公表時になる。

○ 先行指数も上昇に転じる

ＣＩ先行指数は、前月差＋3.3 ポイントと大幅上昇となった。上昇は５ヶ月ぶりである。最終需要財在庫率指数や鉱工業生産財在庫率指数を中心として多くの系列でプラス寄与となっている。在庫率指数の低下には、12 月からのエコポイント半減を睨んだ薄型テレビの駆け込み需要も影響しているとみられる点には注意する必要があるが、景気の先行きを見る上で明るい材料であることは間違いないだろう。





（出所）内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。